

## 施設の社会化と地域貢献

～自分の欲望や願望のままの生き方から、  
人の呼びかけに応じていく生き方への変化～

社会福祉法人 美芳会  
 養護老人ホーム するが荘  
 支援員 望月進介  
 坂巻千雅子

## 社会福祉法人 美芳会



### ●施設の概要

・特別養護老人ホームすどの社	(平成8年4月1日開始)	定員50名
・すどデイサービスセンター	(平成8年4月1日開始)	定員37名
・美芳会支援センター【居宅支援事業】		
・元吉原デイサービスセンターはまかぜ	(平成11年4月1日開始)	定員37名
・富士市東部地域包括支援センター	(平成19年4月1日開始)	
・特別養護老人ホーム風の社	(平成26年4月1日開始)	定員29名
・風の社ショートステイ事業所	(平成8年4月1日開始)	定員10名

## 養護老人ホーム するが荘



・養護老人ホームするが荘 (平成28年3月28日開始)	定員数 90名
内、特定施設入居者生活介護	(定員数 30名)
緊急ショートステイ等	定員数 1名
【平成30年6月末現在】	入所者数 79名
内、特定施設入居者生活介護利用者数	29名

## 養護老人ホームとは？

養護老人ホームは、現在置かれている環境では生活が難しく、経済的にも問題がある65歳以上の高齢者が市区町村の措置によって入所できる施設です。



## 養護老人ホームの入所者像

1. 独居の高齢者
  2. 無年金など経済的に困窮した方
  3. 虐待を受けている高齢者
  4. 要支援者・要介護者
  5. 身体的な障害
  6. 認知症や精神的な障害
  7. 他の法律に基づく施設に入所できない高齢者
  8. ホームレス
  9. 犯罪
  10. 賃貸住宅から立ち退き
- 上記等の理由により、在宅生活の継続が困難な方

## 養護老人ホームが求められる役割

**入所者個人の能力に応じて自立した生活を支援していくこと。**



## 具体的な取り組み

### ① サマーボランティア

- ・小学生、中学生を対象
- ・地区福祉推進会と連携

### ② 地域内のサポーター活動

- ・小学校の草取りなど

### ③ 施設内で複数のクラブ活動

- ・将棋      ・麻雀      ・囲碁
- ・塗り絵    ・手芸      ・輪なげ

### ④ ボランティアスタッフの派遣



サマーボランティアの様子

地域内のサポーター活動の様子

## 具体的な取り組み（目的）

### ① サマーボランティア

- ・地域の福祉教育、地域住民との交流

### ② 地域内のサポーター活動

- ・地域の教育機関と連携、地域貢献活動

### ③ 施設内で複数のクラブ活動

- ・利用者の余暇活動の充実、生きがい
- ・利用者間の交流の活性化

### ④ ボランティアスタッフの派遣

- ・利用者自身の役割、貢献活動

## （例）ボランティアスタッフ派遣

H30年2月	同法人内の特養で将棋のボランティアを探している。するが荘の利用者が参加できないか検討。本人へ意向の確認→「やってみてもいいよ」「一人は嫌」特養との調整開始 ⇒ 一緒に活動できる方を募集し参加が決定
H30年3月2日	ボランティア開始にあたってのオリエンテーション ○個人情報について ○活動内容と注意事項 ○ボランティア保険への加入
H30年3月5日	将棋ボランティアとして活動開始（最初は職員が同行）
H30年4月	職員は行き帰りの送迎のみ付添
H30年5月～	自立しての定期的なボランティア活動へ

## 活動の成果

### ① サマーボランティア

⇒ 学生との交流機会の定着

### ② 地域内のサポーター活動

⇒ 小学校より感謝状をいただく

### ③ 施設内で複数のクラブ活動

⇒ 関わりが深まり社会性が出てきた

### ④ ボランティアスタッフの派遣

⇒ 役割・生きがい

**地域参加が定着することで、職員・利用者ともに地域貢献の実感につながった**

## <事例紹介>

A氏      67歳 男性  
病歴：躁うつ病、脳挫傷

### ■ 生活歴

地元の高校を卒業後、転々と会社勤めをする。家を出て路上生活歴もあり。61歳で生活保護を受給開始する。その後、アルコールの過剰摂取により入院する。退院後も飲酒により入退院を繰り返す。

### ■ 入所経緯

飲酒や喫煙のコントロールが難しく、服薬管理もできず、家族からの支援も難しくなり入所に至る。

## A氏の将棋参加までの経緯

### H29.3 (入所当初)

- ・居室にこもり一人の時間を過ごしていた。
- ・散歩外出するが、単独で行動したい意向が強い。
- ・他利用者との関わりへの拒否があった。

### H29.8

- ・ **一人で散歩より帰荘時に飲酒、喫煙が発覚する。**

個別面談を通じ、興味や長所の聞き取り  
↓  
将棋クラブのメンバーとして参加開始

### H30.2

- ・他事業所へ将棋ボランティアに参加する。

### H30.4

- ・近隣の高校から高校生への将棋のコーチ依頼

## 取り組みから見えてきたもの

### ■信頼関係の構築

- ↓ 利用者自身をありのままに見る事  
利用者への歩みより利用者の強みの発見

### ■ストレングスを発揮する支援

- ↓ 利用者の強みを支援、応えようとする姿勢

### ■行動変容につながる支援

生活の中での行動変容につながる

**過去事実は変わらないが、未来は本人次第で変わることができる。その持っている可能性を引き出すことが重要である。**

## 施設として強化していきたいこと

### ①生活環境づくり

孤独という環境ではなく、人々とのつながりの中にある楽しい環境

### ②ストレングス支援

長所を強め、役割意識。自分自身へ繋げる

### ③地域へアピール

利用者の身体機能の高さもあり、地域の中で活躍の場を増やす。

## 今後の課題

### ①地域への交流機会の増加

### ②地域がするが荘や利用者に期待される取り組みの実践

### ③地域福祉の実践

## 今後の課題①

### ①地域への交流機会の増加

利用者自身の地域との関わりを増やす



施設を知ってもらう、利用者を知ってもらう

## 今後の課題②

### ②地域がするが荘や利用者に期待される取り組みの実践

するが荘ボランティアクラブ

└ 地域へ貢献

└ 住みやすい地域づくり

└ 地域への社会参加

### 今後の課題③

#### ③地域福祉の実践

利用者も含めた、地域住民や関係機関とのネットワークの構築



施設や利用者による社会貢献機会を能動的に増やしていく

### 最後に

利用者と施設が一体となって地域に向き合うことで、社会参画に役割をもち、お互いが支えあう循環を生み、**地域にとって必要とされる存在を目指します。**

ご清聴

ありがとう

ございました